

# 景気景況調査報告

(第38回)

令和7年	4～	6月期	実績
令和7年	7～	9月期	見通し

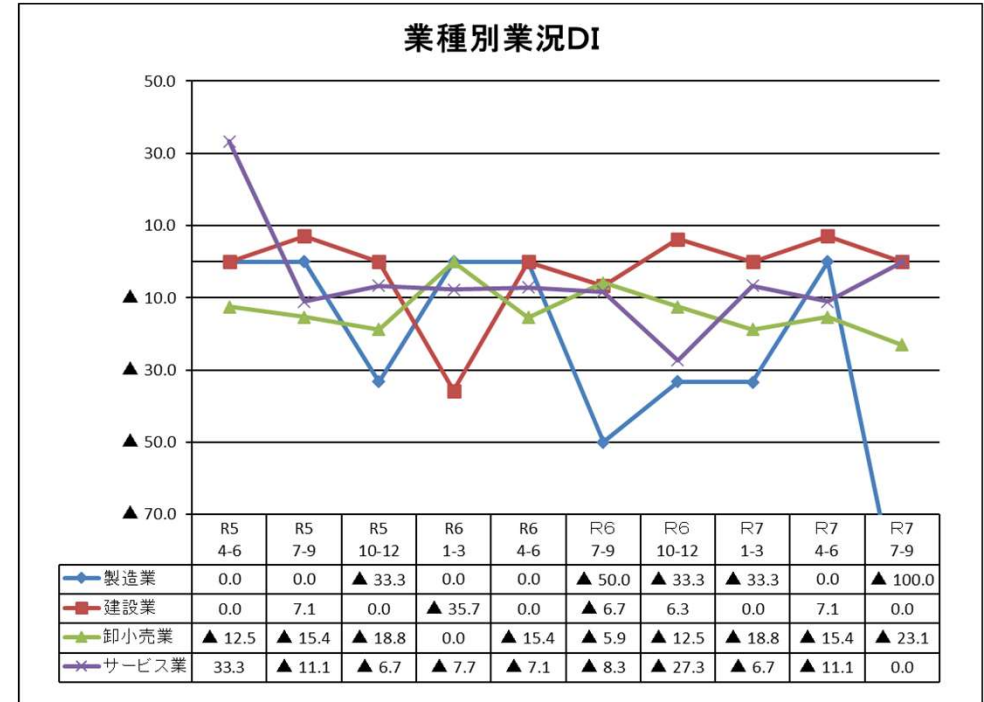
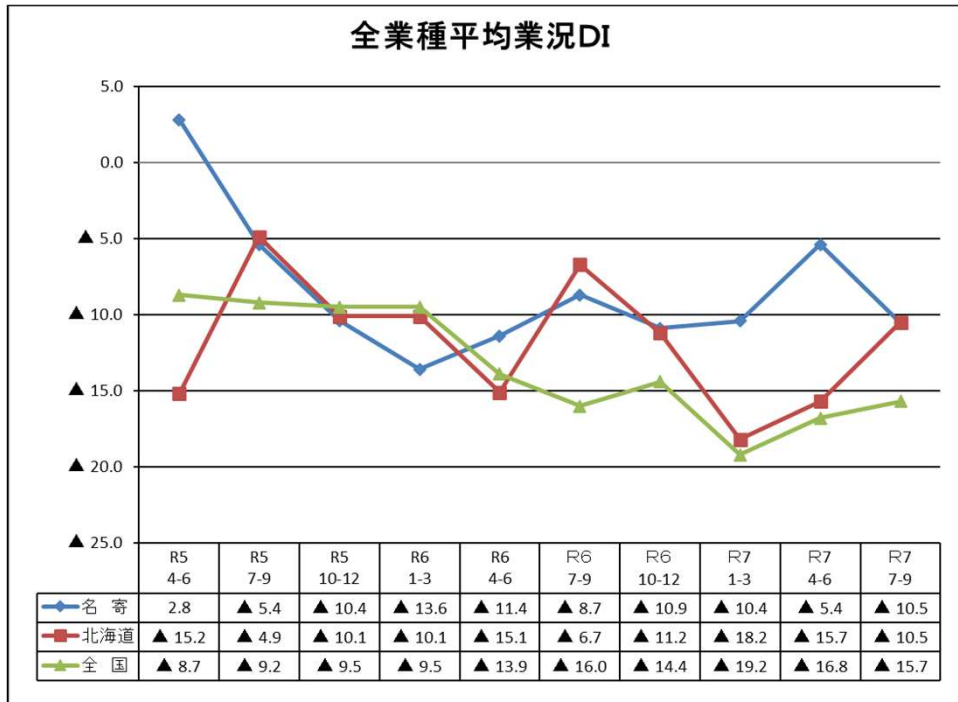
令和7年9月

名寄商工会議所

## I 調査要領

- ①調査対象期間 令和7年4～6月期の実績及び令和7年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、販売、従業員、業況、資金繰りの7項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（メール・FAX・Google Formで協力願ひ） 120社

## II 調査結果

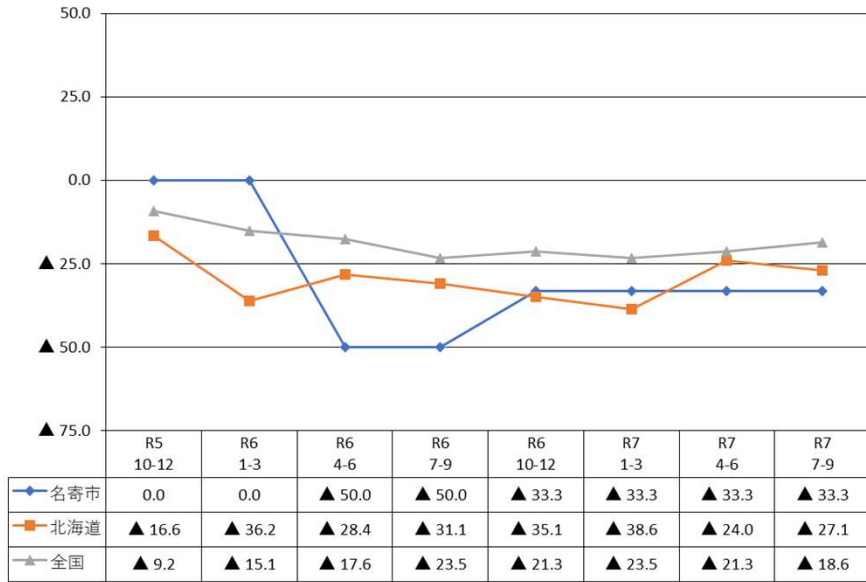


### ※D I：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

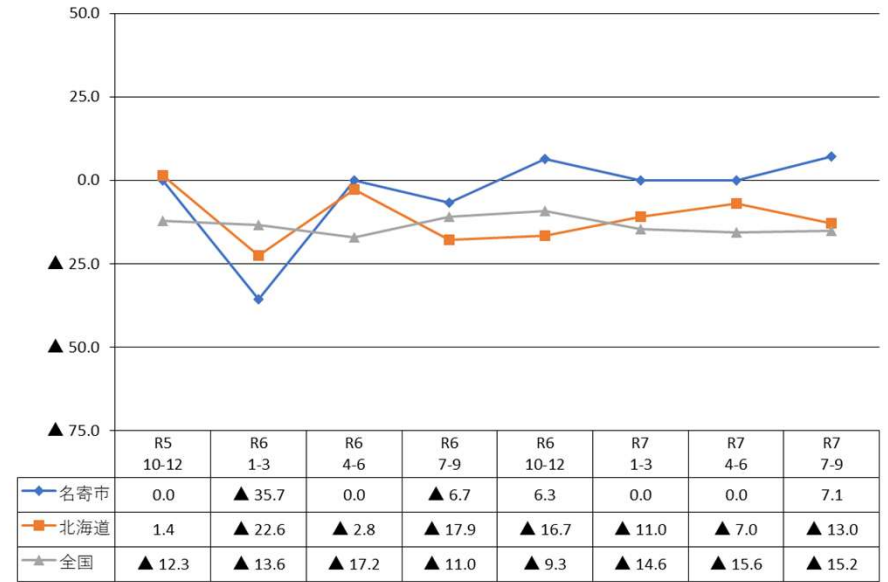
- ・今期市内事業所では、全業種平均で△5.4ポイントと前回調査と比べて5.0ポイント上昇となっているが、見通しでは下落が見込まれ△10.5ポイントと前期とほぼ変わらない値になると思われる
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、名寄市は10.3ポイント上回った。前回に比べ北海道の値が2.4ポイント上昇し、名寄は5ポイント上昇となったため、このような結果につながった。しかし、見通しでは名寄・北海道が同じ値になることが見込まれている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期は11.4ポイントプラスとなっているが、今後は名寄の景気の下落が見込まれるなか、全国的には回復すると見込まれるため、この値の差は減少すると考えられる。
- ・しかし業種によっては物価・原油価格高騰や人件費の上昇等により、今後さらなる業況悪化が見込まれる。

# 業種別業況DI

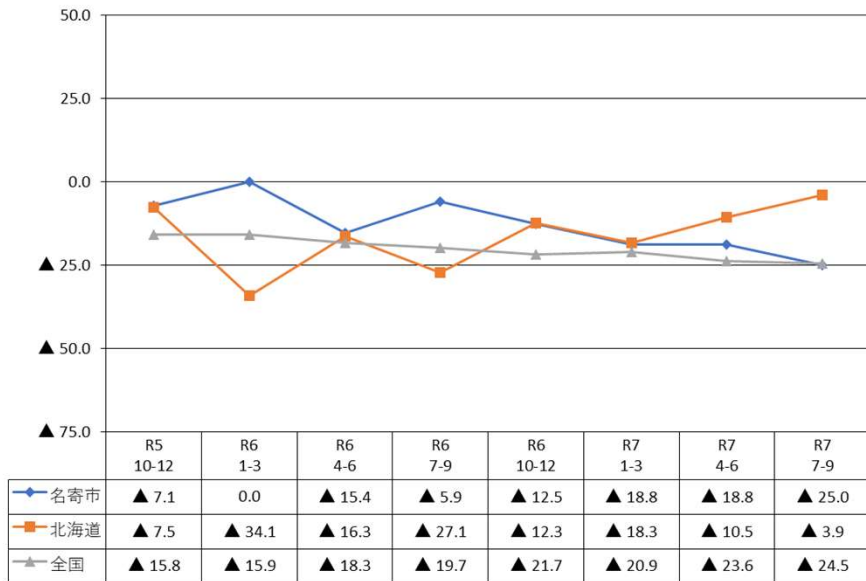
## 製造業 業況DI



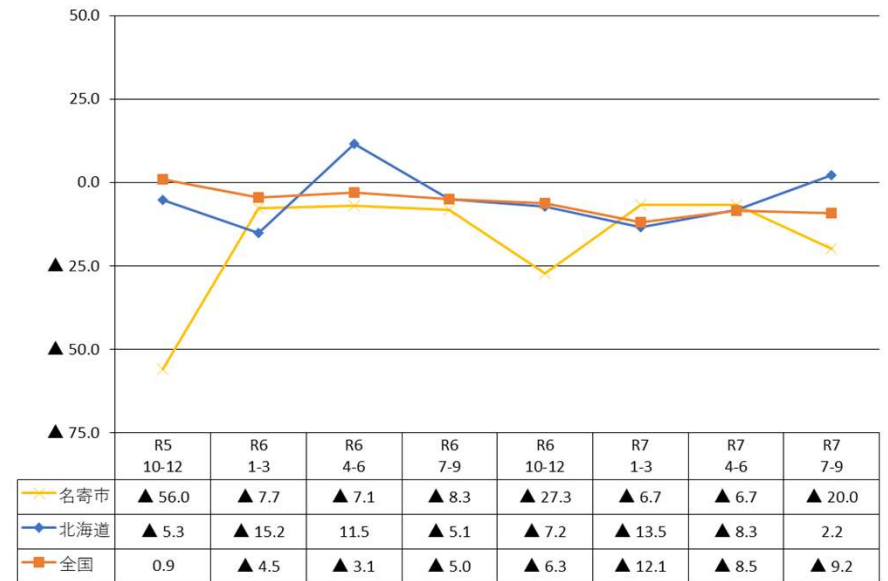
## 建設業 業況DI



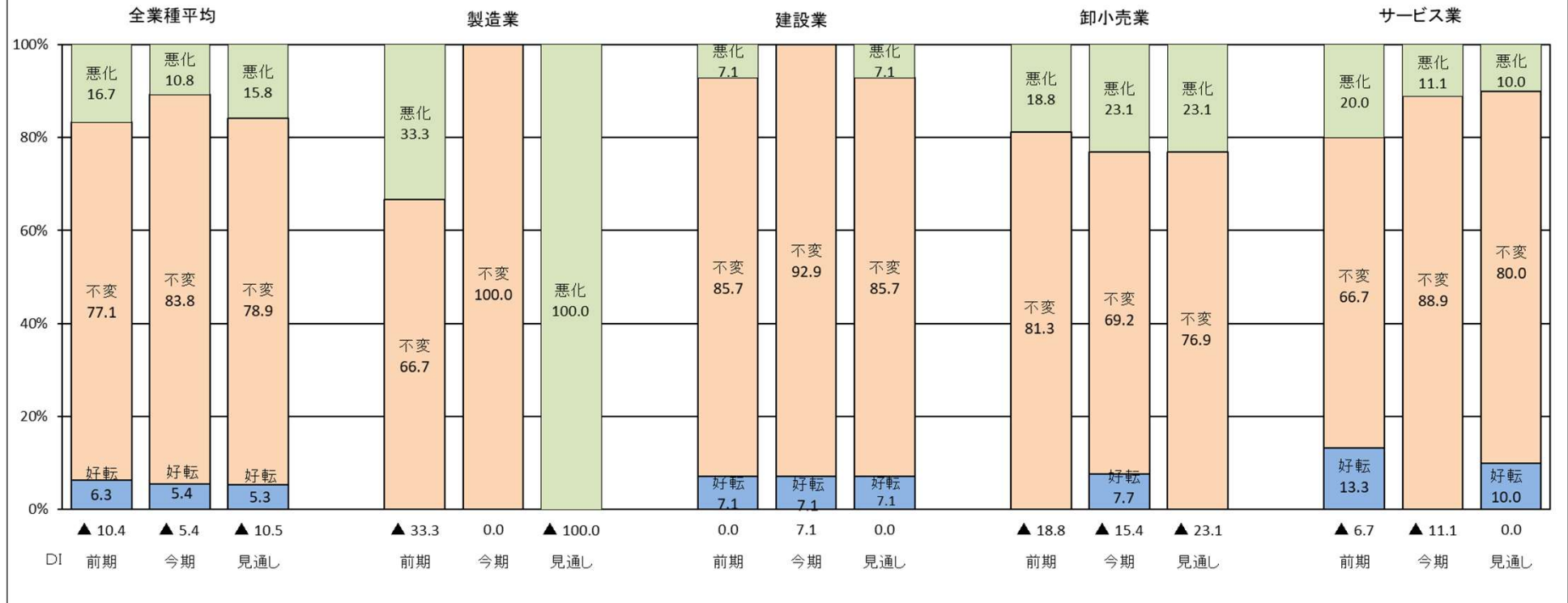
## 卸小売業 業況DI



## サービス業 業況DI



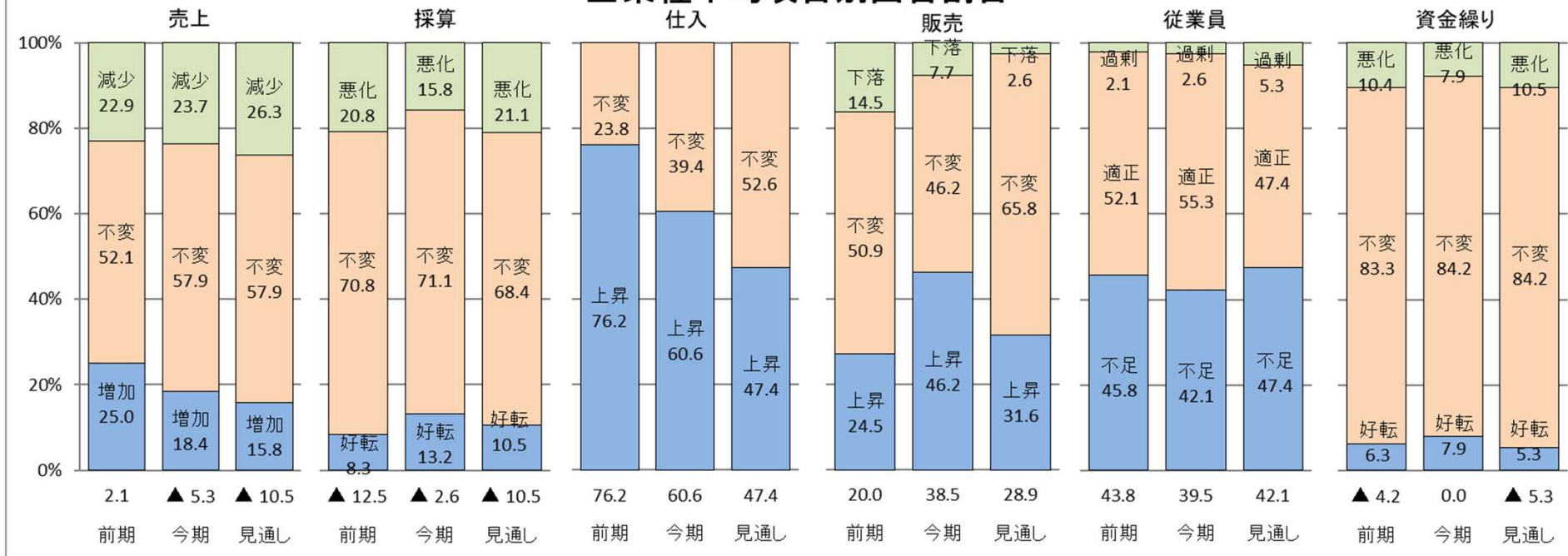
## 業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 全業種平均～ 今期は前期より、悪化が減少したことでDI値が減少している。  
見通しでは、好転数が大きく変わらないが、悪化が増えたことにより、DI値が減少することが見込まれる。
- 製造業～ 今期は前期と比べ、悪化が減少し不変が増加し、100%となった。見通しでは今期より悪化することが見込まれる。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が減少し、「好転」は前と同じ値であったためDI値が上昇した。  
見通しでは「悪化」と回答した事業所が増加した為、さらにDI値は0.0に戻ることが見込まれる。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が4.3%増加し「好転」が7.7%増加しており、DIが△15.4ポイントと減少した。  
見通しではさらに「悪化」は変わらないが、「好転」が0.0へ減少しているため、DIが下落することが見込まれる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「好転」・「減少」がともに減少し、「不変」が増加している。  
しかし、見通しでは「好転」の割合は0%へ戻り、DI値の下降が見込まれる。  
全体的に仕入運賃増加・求人難・仕入単価増加・原油価格高騰・物価高騰等々の要因が挙げられている。

## 全業種平均項目別回答割合



### 売上 DI

[下落の要因]

今期が△5.3ポイントと前期より7.4ポイント下落している。見通しでは、さらに下落することが見込まれる。  
 ・資材の値上げ ・物価高に伴う販売数の低迷 ・需要の減少

### 採算 DI

[上昇の要因]

今期△2.6ポイントと前期より9.9ポイント上昇となっている。今期は前期より悪化が減少し、好転が増加しているが、見通しでは「好転」が減少、「悪化」増加のため、DIが下落することが見込まれる。  
 ・資材の高騰 ・原油価格の高騰 ・価格転嫁 ・販路拡大

### 仕入 DI

[下落の要因]

今期60.6ポイントと前期より15.6ポイント下落。見通しでは不変が増加するため、DIが下落することが見込まれる。  
 ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇 ・原油価格の高騰

### 販売 DI

[上昇の要因]

今期38.5ポイントと前期より18.5ポイント上昇となっている。見通しではさらに「下落」が減少するが、「上昇」の値も減少することが見込まれる。  
 ・原材料の上昇 ・メーカー値上げ ・製造コスト上昇 ・エネルギー価格の上昇

### 従業員 DI

[上昇の要因]

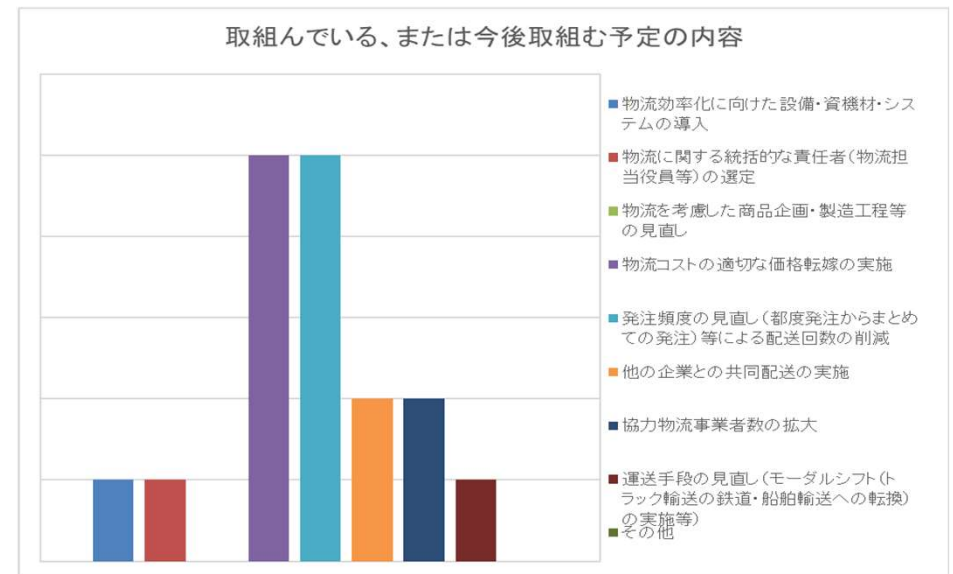
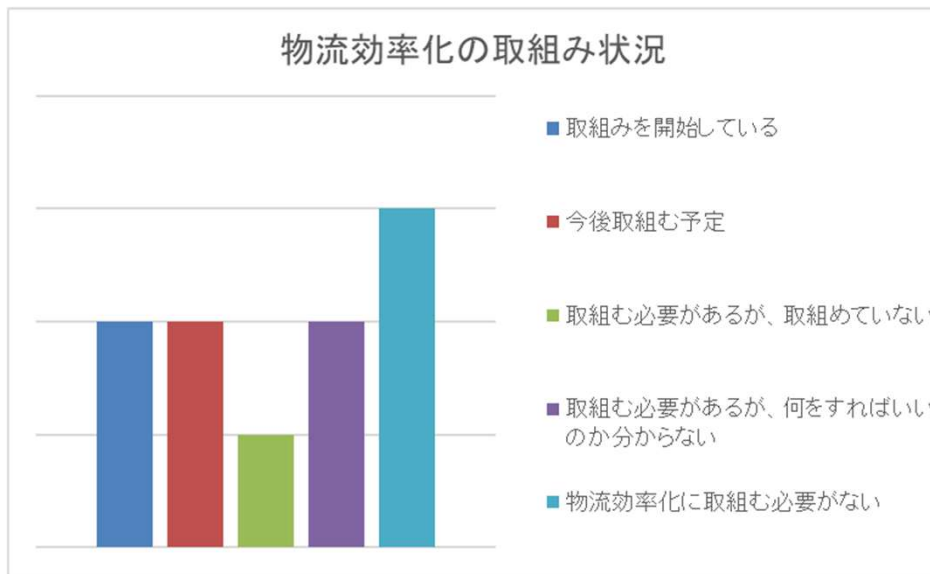
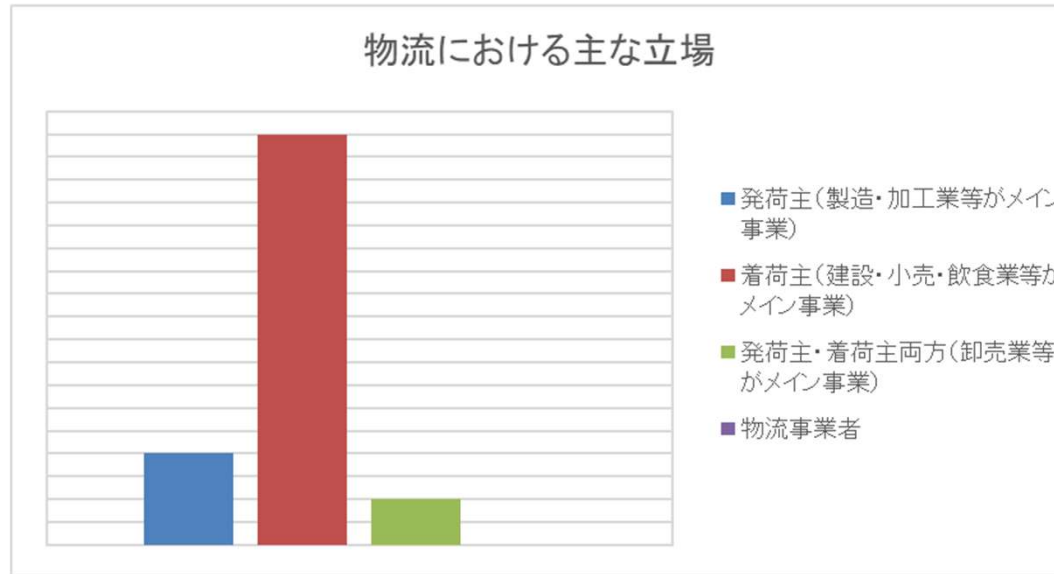
今期39.5ポイントと前期より4.4ポイント下落。「不足」と回答した割合が42.1%と減少している。また見通しでは「不足」の増加が見込まれる。  
 ・高齢化 ・人口減少 ・若年層の不足 ・求人難 ・退職者の補充ができない ・仕事量の減少 ・職人不足

### 資金繰り DI

[上昇の要因]

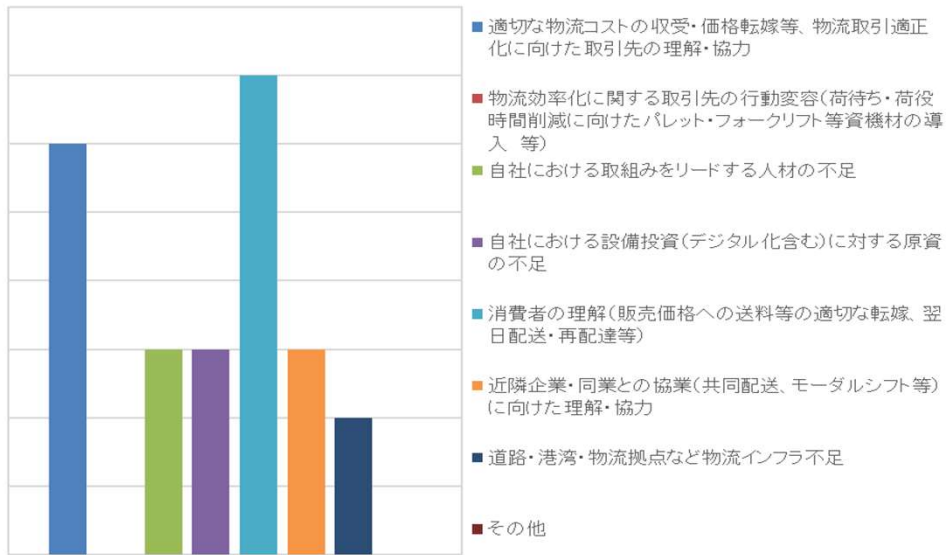
今期は「悪化」が前期より△2.5%減少している。しかし、悪化が増加することが見込まれ、DI値の下落が見込まれる。  
 ・公共事業の増加 ・新事業の開始

# 付帯調査①



# 付帯調査②

物流効率化、物流取引適正化の推進にあたり、現在課題となっていること



物流コストの増加分の価格転嫁状況

